銅・アルミ市況見通し

11月

橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート

銅

9月の伸銅品生産は、前年同月比で19・1％減の4万9645トンとなり22カ月連続で前年同月に比べて減少した。車載向けの需要は回復傾向にあり、生産量が同3割減だった6～8月に比べて減少幅が改善した。

品種別では銅条が1万7581トンで同15％減（前年同月比では5カ月連続で減）、銅管が6270トンで同30％減（同8カ月連続減）、黄銅棒が1万1713トンで同17％減（同14カ月連続減）だった。

9月の銅電線出荷量は同12・5％減の5300トンで、うち国内が同12％減、輸出が同27・4％減。

銅輸出は、電気銅が同100・7％増の8万5094トン、銅スクラップが同28・3％増の3万681トン。銅輸出は米中における景気の回復期待（需要増）から共に増加した。

銅輸入は、電気銅が同151・7％増の499トン、銅スクラップが同2・8％減1万106トンだった。銅輸入は想定よりも国内生産が落ちてないことから増加した。

11月銅市況予想レンジ

ＬＭＥ銅セツルメント	6500～6900ドル	横ばい
電気銅建値	72～78万円	横ばい
為替（1ドル）	104～106円（1カ月間ＴＴＭ）	横ばい

銅スクラップ景況予想

銅建値は10月前半に2万円下落し後半に2万円上昇した。流通在庫は前月からの玉不足が響いて少ない。

需要面は国内自動車販売の回復および米中需要の回復に伴い、輸入玉が不足し旺盛となっている。

ＬＭＥ銅・為替予想

今月は米大統領選の動向や欧米のコロナウイルス収束の動向に左右される。

米大統領選はバイデン優勢の流れを受け経済対策への期待感から景気が上向く可能性がある。ただ、開票を巡る混乱が広がれば、相場が崩れるきっかけになる。

コロナ収束の動向では欧州でのロックダウンの増加や米国での感染拡大から、世界的には悪化する可能性が高い。

アルミ

9月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は7・5減の14万9723トンとなり14カ月連続で前年同月を下回った。生産量は板類が同6・4％減の9万1586トン、押出類が同9・2％減の5万8137トンだった。

9月のアルミニウム2次合金・同合金地金生産は同5・1％減の6万3170トン（21カ月連続の減）。出荷は同7％減の6万4032トン（12カ月連続の減）だった。

輸出はアルミ新地金が同21・7％減の134トン、アルミ2次合金が同11・4％減の1569トン、アルミスクラップが同27・5％増の1万8956トン、アルミ缶が同7・88％減の6997トン。

輸入はアルミ新地金が同31・9％減の7万3286トン、アルミ二次合金が同23・8％減の6万6990トン、アルミスクラップが同61・8％増の600トン、アルミ合金スクラップが同20・8％増の3530トンだった。

11月アルミ市況予想レンジ

ＬＭＥアルミ現物後場買い	1700～1800ドル	弱い
スクラップ	マイナス5円～据置き（前月最終価格より）	強い
為替（1ドル）	104～106円（1カ月間ＴＴＭ）	横ばい

アルミスクラップ景況予想

流通在庫はＬＭＥ価格が1800ドル後半程度と100ドル上昇していることや発生減から前月同様に売り惜しみモードとなっている。

需要面は米中経済の回復による輸入塊価格の上昇から、国内モノにも引き合いあり引き締りモードとなっている。